

道の駅の足湯に浸かりながら 地域のお年寄りから災害のお話を聞きました！

(徳島県美波町にて実施したカフェ)
開催詳細：P55 参照

徳島県の南部に位置する美波町では、約 60 年前に大きな津波が発生し、たくさんの方が亡くなりました。また、今の子供たちが大人になる頃までの 30 年間で再び大きな津波が発生する確率は 50%とされています。

60 年前の記憶を風化させることなく未来へ語り継いでいけるよう、地域内外の人が出会う「道の駅」を利用して、紙芝居や被災者からの体験談をとおして教訓を学びました。



【開催概要】

道の駅のさまざまな場所で、次々と手作りのぼうさいトーク・イベントを展開！

地元小学生が「お年寄りも元気に避難できるように」と考えつかった防災体操を披露しました。



この地域で発生した 60 年前の津波を題材とした紙芝居を見ました。



60 年前の津波に遭った話を地域のお年寄りから聞きました。



子供たちは防災ゲーム「ぼうさい駅伝」で遊んで、楽しく防災知識を学習しました。



日常にある用品で簡単に作れる手作りコンロの実験をしました。



大人も子供も一緒になって、地域での備えについて話し合いました。



【参加者の感想】

参加者からは以下のような感想が寄せられました。

- ・津波が起こったときには「お金を持って行きたい」、「着物を持って行きたい」という欲は張らず、逃げる事が大切ということを知りました。
- ・防災体操をして、体力を作って自分の命を守る事に努めたいと思いました。
- ・「ぼうさい駅伝」の問題で、消火器が15秒しか使えないのに驚きました。
- ・災害伝言ダイヤルのかけ方を知ることができました。
- ・被災者の体験談に聞き入ってしまいました。このようなイベントは今後も継続してほしいです。

【地元の防災ネタ提供者のコメント】

- ・地元にある災害や防災に関する素材探しは、常に探そうとする意欲が大切です。地域における学習会等で住民からいろいろ聞いてみたり、国の防災啓発に関する資料等を見ることも重要です。
- ・防災分野だけでなく、様々な分野の情報にアンテナを張り、防災分野にうまく取り込むことができるか考えてみるのも良いと思います。また遊び心も大切です。
- ・小学校で実施されている総合学習で、行政と小学校が連携して防災学習を実施することで、防災イベントの中に小学生の発表を組み込むことができ、小学生の参加が可能になると思います。
- ・過去に大災害が発生している地域ならば、被災者の体験談は非常に良い素材になると思います。体験談を話せる方を探すには、地道にいろんなお年寄りの方に聞き取り調査をするのがよいと思います。
- ・防災に関する素材を見つけた後は、素材を体系的に集め管理する手間をかけていくことが大切です。また、住民との交流の機会等で素材を試して意見を頂くことにより、素材を育て上げることも大切です。

【コーディネーターのコメント】

<ぼうさいカフェを振り返って>

- ・みんなで体操をしたことや、紙芝居を昔ならではの木枠を使って朗読したこと、日用品でできるコンロを作ったことなど、手作り感覚を楽しみながら「ぼうさい」について考えることができました。
- ・ぼうさいカフェを実施する際は、過去の災害の被災者から実際に話を聞くなど、参加者が主体的に考えるための「リアルな体験」が必要です。この体験がイベント後の行動に繋がると思います。また、地域や世代を繋ぐ「感動」も必要だと思います。

<ぼうさいカフェの組み立て方について>

- ・「道の駅」を利用するにあたり、地元の方々だけでなく道の駅をふらっと訪れた一般客にも気軽に参加して頂けるよう、プログラムを短く切って「つまみ食い」ができるようにしましたが、この手法は有効だと思います。また、一般のお客さんを呼び込めるようチラシを配布したり、マスコットによる呼び込みをすることも有効だったと思います。

【会場レイアウト】

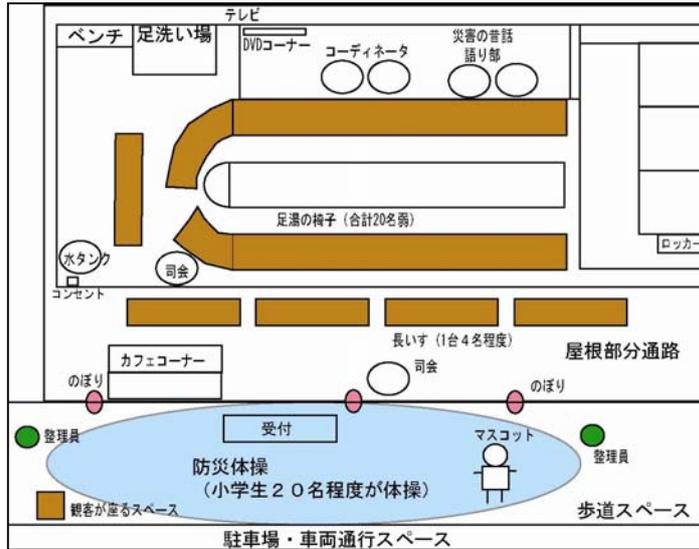
足湯スペースに椅子を並べ、ぼうさいカフェのコーナーを設けました。



普段の足湯スペース



みんなが座れるように、道の駅にあるベンチを足湯スペースの後ろに置きました

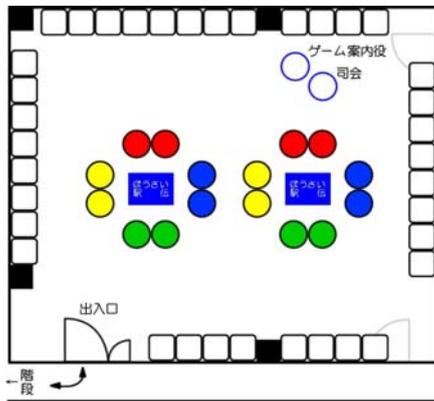


開催スペースが駐車場や車両通行スペースに及ぶ可能性がある場合は、交通整理等を実施する必要があります。

当日はのぼりを立てたり、マスコットを呼び集客しました。

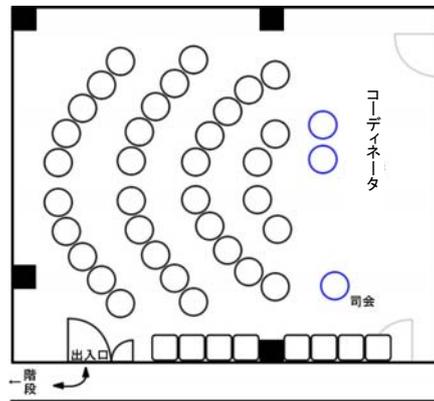
防災ゲームやフリートークは、道の駅内にある多目的スペースを利用しました。

< 防災ゲーム実施時 >



多目的スペースの机などを外に出し、スペースを有効に使えるようにしました。

< フリートーク実施時 >



道の駅内の総合案内スペースには、災害写真やパネル等を掲示した展示コーナーを設けました。

【利用したツール】

ぼうさい駅伝	すごろくに似た防災知識ゲーム。問題は、例えば「身の回りにある消火器は、だいたいどのくらいの時間使える？」など防災豆知識が満載です。 http://www.sbk.or.jp/top.html
ほのぼのあかり 卓上コンロ	日常にあるティッシュやサラダ油で火を起こすことができます。また、空き缶を利用したコンロと灯芯をたくさん用意することにより卓上コンロになります。 http://www.sbk.or.jp/top.html
紙芝居	この地域で発生した60年前の津波を題材とした紙芝居です。

【恐ろしかった津波の体験】(昭和5年生まれの方の体験談)

当時、私は16歳でした。夜12時半から1時頃、寝ている時に突然家が大きく横に揺れました。揺れが次第に強くなり、父が「このままでは家が崩れたら、もう家の下敷きになるから」と言って、何も履かず裸足のままで家族4人で外に出ました。

やがて揺れが収まると、再び眠るために家に戻りました。しかし布団に入って何十秒か経つと、外からざわざわと「津波だ」という声が出て、家族4人で玄関の戸を開けるともう既に、腰ぐらいの位置まで津波が来ていたのでした。逃げようとしても津波の威力で思うように避難できず、津波にもまれてしまったのでした。水の中でどちらが上か下かも分からず、「もう死ぬかもしれない」と思った時、最後の力を振り絞って水の上に浮き上がると手に何か触れたので、津波が引くまでそのままつかまり続けました。

やがて潮が引き、体が地上に下りたあと、誰かの声が聞こえたので声をかけてみると、逃げる時バラバラになった家族が裏の家に避難していたのでした。

自宅に戻ると1階はひどい状態で、置いてあった物は全て流されていました。近所の人からリンゴ箱をいくつか貰い、その上に干して乾かした畳を敷き、しばらくの間過ごしました。

海辺に住む者は『揺れを感じたらすぐ避難』。

60年前、そんな当たり前のことができませんでした。同じ失敗を繰り返さないよう防災の意識をしっかりと身につけることが大切です。

【まとめ】✍️

このぼうさいカフェでは、人が行き交う「道の駅」という場所で実施し、地域住民だけでなく道の駅をふらっと訪れた一般の方にも参加して頂けるよう「つまみ食い」ができるイベントの組合せをしました。

また、主に大人を対象としたイベント群と、子どもを対象としたイベント群、大人と子どもが一緒になった「振り返り」を設けることにより、大人と子どもが輪をつなぎ、地域内で災害に備えることが重要であることを知って頂きました。

【やってみませんか】💡

道の駅など人が行き交う場でぼうさいカフェを実施すると、防災に縁もゆかりもない一般の方がふらっと立ち寄ることが期待できます。この際、実施する場所の日常の利用年齢層や利用目的を考えて企画することが重要です。

人が行き交う場所としては、道の駅以外にも、大きな公園、地域の観光スポット、高速道路のサービスエリア等が考えられます。